

問1 19世紀半ばにイギリスが「世界の工場」として世界経済の中心となった背景には、国内の生産体制においてどのような変化があったからですか。その仕組みや理由として正しいものを選びなさい。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 農村部での手工業を禁止し、ギルドと呼ばれる組合による伝統的な生産様式を全土に強制したから | 2. 機械の導入による工場制機械工業が発展し、工業製品を安価に大量生産して世界中へ輸出できるようになったから | 3. 東インド会社を通じた独占貿易を強化し、他国の工業製品に極めて高い関税をかけて国内産業を保護したから | 4. 北米の植民地において茶税などの課税を強化し、そこから得られた莫大な税収を国内の食料生産のみに投入したから |
|---|--|--|---|

問2 江戸幕府の対外政策を批判した思想家たちが弾圧された「蛭社の獄」について、その直接的なきっかけとなった出来事として正しいものを選んでください。 (2017年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 伊能忠敬が幕府の許可なく詳細な日本地図を完成させ、それを海外へ持ち出そうとしたこと。 | 2. 渡辺華山や高野長英が、幕府による異国船への無差別な攻撃を批判する著書を記したこと。 | 3. アヘン戦争の混乱に乗じて、江戸近海に接近した外国船を幕府が誤って撃沈したこと。 | 4. ラクスマンが通商を求めて来航した際に、幕府が長崎での交渉を認める不適切な対応をしたこと。 |
|---|--|--|---|

問3 幕末に「尊王攘夷」を掲げていた薩摩藩や長州藩が、後にイギリスなどの欧米諸国と接近し、倒幕（幕府を倒すこと）へと方針を転換させた直接的な理由として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 薩英戦争や四国艦隊下関砲撃事件を通じて、欧米諸国の圧倒的な軍勢力を思い知り、武力による攘夷は不可能だと悟ったため。 | 2. 廃藩置県が行われたことで藩という組織自体がなくなり、天皇を中心とする新しい地方統治の仕組みが完成したため。 | 3. 日米和親条約の締結によって不平等条約の内容がすべて改正され、外国を排除する必要がなくなったため。 | 4. 産業革命の進展によって日本国内に鉄道や郵便制度が整備され、武士による政治の継続が困難になったため。 |
|--|--|---|--|

問4 19世紀のアジアにおいて、欧州列強による支配が強まる中で起きた出来事について、インドでの事例として正しい名称を選びなさい。 (2022年 京都府公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|-------------|----------|-----------|
| 1. ロシア革命 | 2. フランス人権宣言 | 3. 権利の章典 | 4. インド大反乱 |
|----------|-------------|----------|-----------|

問5 18世紀後半以降、北方から日本へ接近した外国船への対応について述べた文として、正しいものを選んでください。 (2017年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---------------------------------------|--|---|
| 1. 1792年、ロシアのラクスマンが漂流民を連れて根室に来航し、通商を求めた。 | 2. 蛭社の獄の後、幕府はすぐに鎖国を解き、ロシアとの国交を正常化させた。 | 3. 1842年、異国船打払令を強化するために、幕府は江戸湾の沿岸警備を大名に厳命した。 | 4. 清がアヘン戦争に勝利したことを受け、幕府は再び異国船打払令を厳格化した。 |
|--|---------------------------------------|--|---|

問6 18世紀後半からイギリスで始まった産業革命と、その後の社会の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 産業革命による労働問題などを解決するため、アメリカ合衆国では18世紀のうちにニューディール政策による社会保障制度が確立された。 | 2. 蒸気機関の改良などによる技術革新により、イギリスは圧倒的な生産力を背景に「世界の工場」としての地位を確立した。 | 3. 日本の社会保障制度における「社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生」の4つの柱は、イギリスの産業革命の影響を受けて江戸時代に日本へ導入された。 | 4. 産業革命による工業化はフランスで最も早く始まり、イギリスやドイツがそれに続くことで、ヨーロッパ全体の経済が発展した。 |
|--|--|--|---|

問7 イギリスで始まった産業革命では、新しい動力源の普及によって社会の仕組みが劇的に変化しました。この変革の背景にある動きと、その動力を備えたペリーの黒船が当時の日本に与えた歴史的背景の説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 電気を動力源とするモーターが発明されたことで、工場に電力が供給され、従来の石炭利用による大気汚染問題が完全に解決された。 | 2. 石油を燃料とするディーゼルエンジンが開発されたことで、大型の鉄鋼船による世界一周の定期航路が確立され、貿易が自由化された。 | 3. 石炭を燃料とする蒸気機関が実用化されたことで、天候や自然環境に左右されない大規模な工業生産や交通機関の発達が可能になった。 | 4. 風力を利用する高度な帆走技術が確立されたことで、イギリスは世界中の海を制し、日本に対しても開国を迫る軍勢力を保持した。 |
|---|--|--|--|

問8 幕末の開国にともなって貿易が開始されると、日本から大量の金貨が国外へ流出する事態となりました。この背景にある、当時の日本と外国における「金と銀の交換比率」の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 日本と外国の交換比率はほぼ同じであったが、日本の金貨は純度（金の含有量）が極めて高かったため、工業用の地金として海外で需要が高まった。 | 2. 日本国内では外国に比べて銀に対する金の価値が低く設定されており、外国人が銀を持ち込んで日本で金に交換すると、国際価格よりも多くの金が入る状況だった。 | 3. 世界的に金が不足していたため、幕府は不足していた銀を外国から輸入する目的で、国策として金貨を大量に輸出し、外貨獲得を優先した。 | 4. 日本国内では外国に比べて銀に対する金の価値が非常に高く設定されており、日本の金貨を海外に持ち出して売却すると、多額の銀が得られる状況だった。 |
|--|---|--|---|

問9 1857年に発生したインド大反乱の背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 「扶清滅洋」をスローガンに掲げる宗教団体が、外国勢力を排除しようとして北京で蜂起した。 | 2. キリスト教の影響を受けた組織が、清の打倒を目指して南京を都に国を建てようとした。 | 3. イギリスによるアヘンの密輸を清が厳しく取り締まったことが原因で、武力衝突に発展した。 | 4. イギリスが雇ったインド人兵士（シパーヒー）の蜂起から始まり、農民なども加わる大規模なものとなった。 |
|--|---|---|--|

問10 1860年に江戸城の桜田門外において、水戸藩などの元浪士らが老の井伊直弼を暗殺する「桜田門外の変」が発生しました。この事件が起きる直接的なきっかけとなった、井伊直弼が日米修好通商条約の締結や将軍継嗣問題に反対する人々を厳しく処罰した出来事を何といいますか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 安政の大獄 | 2. 生麦事件 | 3. 薩長同盟 | 4. 大政奉還 |
|----------|---------|---------|---------|

問11 幕末の1850年代後半、江戸幕府が欧米諸国と通商条約を結んで開国を進めた際、これに反対する勢力の間で高まった政治思想と、その背景にある当時の社会状況について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 自由民権運動：士族の反乱が終結した後の社会情勢を背景に、藩閥政治を批判し、国民の権利を守るための議会開設を求めた。 | 2. 文明開化：産業革命による生産技術の向上を背景に、西洋の進んだ制度や文化を取り入れ、幕府の権威を近代化しようとした。 | 3. 尊王攘夷運動：勅許を得ない条約締結への反発や、開港に伴う物価高騰による社会不安を背景に、天皇を尊び外国勢力を排除しようとした。 | 4. 公武合体運動：元禄文化の成熟による町人の台頭を背景に、天皇と幕府が協力して欧米諸国との不平等条約を改正しようとした。 |
|--|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 機械の導入による工場制機械工業が発展し、工業製品を安価に大量生産して世界中へ輸出できるようになったから	産業革命によって蒸気機関を動力源とする機械が普及したことで、それまでの手作業に代わる「工場制機械工業」が確立されました。これにより、高品質な製品を圧倒的なスピードで大量に生産できる仕組みが整い、自由貿易を通じて世界中の市場を支配するに至りました。ロシアによる南下政策への対応や、かつてのアメリカ植民地への課税問題とは文脈が異なります。
問2	答え 2 渡辺崋山や高野長英が、幕府による異国船への無差別な攻撃を批判する著書を記したこと。	1837年にアメリカの商船モリソン号が来航した際、幕府は異国船打払令に基づいてこれを砲撃しました。この事件を知った渡辺崋山（『慎機論』）や高野長英（『戊戌夢物語』）ら蘭学者は、海外情勢を知らない幕府の無謀な対応を批判しました。これに対し、幕府は彼らを捕らえて処罰し、言論を弾圧しました。これが1839年に起こった蛸社の獄です。
問3	答え 1 薩英戦争や四国艦隊下関砲撃事件を通じて、欧米諸国の圧倒的な軍勢力を思い知り、武力による攘夷は不可能だと悟ったため。	長州藩や薩摩藩は当初、外国船を砲撃するなど激しい攘夷を実行しましたが、その報復として受けたイギリスなどの軍事攻撃により大敗を喫しました。この経験から、旧来の装備では外国に太刀打ちできないことを痛感し、単なる外国排除よりも、まず幕府を倒して近代的な統一国家を築くべきだという考えに至りました。その後、彼らは敵対していた外国から武器を購入するなど、現実的な路線へと舵を切りました。
問4	答え 4 インド大反乱	19世紀の世界では、産業革命を成し遂げた欧米諸国がアジアやアフリカへ進出し、植民地を広げていきました。インドでは1857年に、それまでのイギリスによる過酷な支配や文化への不理解に対する不満が爆発し、インド大反乱が起こりました。これは単なる兵士の反乱にとどまらず、インド全土に広がる民族的な抵抗運動となりました。
問5	答え 1 1792年、ロシアのラクスマンが漂流民を連れて根室に来航し、通商を求めた。	ロシアは18世紀末から極東への関心を強め、ラクスマンが根室に来航したことで、長年続いていた幕府の対外政策に揺さぶりをかけました。幕府はこれに対し、松平藩などの北方警備を強化するとともに、特定の港以外での交渉を拒否する姿勢を維持しました。その後の1825年には異国船打払令が出されるなど、当初は強硬な対応が主流となりました。
問6	答え 2 蒸気機関の改良などによる技術革新により、イギリスは圧倒的な生産力を背景に「世界の工場」としての地位を確立した。	産業革命は18世紀後半にイギリスで始まり、ワットによる蒸気機関の改良などの技術革新が大規模な工場生産を可能にしました。これにより、イギリスは世界最大の工業国としての地位を築きました。選択肢にあるアメリカのニューディール政策は1929年の世界恐慌を受けた1930年代の政策であり、日本の社会保障制度の4つの柱（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生）は戦後の現代社会において整備されたものです。歴史的出来事の順序と各国の役割を整理して理解することが重要です。
問7	答え 3 石炭を燃料とする蒸気機関が実用化されたことで、天候や自然環境に左右されない大規模な工業生産や交通機関の発達が可能になった。	産業革命の最大の特徴は、人力や水力・風力といった自然の力から、蒸気機関という機械的な力へと動力源が転換した点にあります。これにより、工場での大量生産や蒸気船・蒸気機関車による高速・大量輸送が実現しました。ペリーが来航した際、日本側が作成した記録には「風を待たずに進む巨大な船」への驚きが記されており、この技術的な背景が日本に開国を決断させる一つの要因となりました。
問8	答え 2 日本国内では外国に比べて銀に対する金の価値が低く設定されており、外国人が銀を持ち込んで日本で金に交換すると、国際価格よりも多くの金が入る状況だった。	当時の国際的な金銀比価が「金1：銀15」程度であったのに対し、日本国内では「金1：銀5」程度でした。つまり、日本では銀に対する金の価値が外国よりも相対的に低く（安く）設定されていました。このため、外国人は海外で安く手に入れた銀を日本に持ち込んで金に交換し、それを再び海外へ持ち出すだけで、元々の3倍もの金を手に入れることができました。この利ざやを目的とした取引によって、日本の金貨は急速に国外へ流出しました。
問9	答え 4 イギリスが雇ったインド人兵士（シパーヒー）の蜂起から始まり、農民なども加わる大規模なものとなった。	インド大反乱は、イギリスの経済的・宗教的圧迫に対する不満から始まりました。他の選択肢は、同時期の中国（清）で起きた「義和団事件（扶清滅洋）」「太平天国の乱（清の打倒）」「アヘン戦争（アヘン密輸）」の説明です。インド大反乱は、シパーヒー（セポイ）と呼ばれるインド人志願兵が中心となって火蓋が切られました。
問10	答え 1 安政の大獄	江戸幕府の大老に就任した井伊直弼は、天皇の許可（勅許）を得ないまま日米修好通商条約を締結し、さらに將軍の跡継ぎ問題でも強硬な姿勢を貫きました。これらの政治手法に批判的な声を上げた公家や大名、吉田松陰などの志士らを厳しく弾圧したのが安政の大獄です。この弾圧に対する激しい反発が、のちの桜田門外の変を引き起こす要因となりました。
問11	答え 3 尊王攘夷運動：勅許を得ない条約締結への反発や、開港に伴う物価高騰による社会不安を背景に、天皇を尊び外国勢力を排除しようとした。	1858年に日米修好通商条約が天皇の許可（勅許）を得ないまま結ばれたことや、開国によって国内の物資が不足し物価が急騰したことは、幕府に対する強い不信感を生みました。こうした状況下で、天皇を敬う「尊王」と外国を追い出そうとする「攘夷」が結びつき、幕府を批判する大きな運動へと発展しました。選択肢にある「元禄文化」や「士族の反乱」は時代が異なるため、混同しないよう注意が必要です。